

グループ会社のシナジー

旧株式会社森精機製作所と旧GILDEMEISTER（ドイツ、ブランド名「DMG」）が2016年に完全経営統合して誕生したDMG MORI。統合以前から、融和的な企業買収や事業承継により、積極的に技術、ノウハウを取り込み、事業成長につなげてきました。今後も、内部成長に加え、適宜M&Aを行うことにより、お客様にとってのベスト・パートナーであり続けます。

TAIYO KOKI

太陽工機

業界初の立形グラインディングセンタを開発した同社のグループ会社化により、切削工程から研削工程まで一貫通費で提供可能に。（2025年に100%グループ化）

現 DMG MORI Ultrasonic Lasertec(ドイツ)

セラミックス、ガラス等の脆性材料やシリコンの加工を可能にする超音波技術を有する旧SAUER社をグループ化。



現 DMG MORI Poland (ポーランド)

高品質のターニングセンタに強みを有していた旧FAMOT社のグループ化が、その後、中欧最大の工作機械基幹部品の生産拠点に発展。

現 DMG MORI Pfronten (ドイツ)

立形フライス盤、NCボール盤、マシニングセンタで業界でも卓越した知見を有していた旧Deckel Maho社の事業譲受が、のちの5軸加工機での技術優位につながる。

旧 森精機製作所 設立

1948

旧 GILDEMEISTER 設立

旧 日立精機

複合加工機に強みを持つ旧日立精機社の日本事業譲受により、製品ラインの強化と同時に、販売プレゼンスを東日本にも拡大。

DMG MORI

DIGITAL

現 DMG MORI Digital

ソフトウェア開発を行う旧ビー・ユー・ジー社は、現在 CELOS X、MAPPS や CELOS DYNAMICpost 等を開発。



旧 DIXI machines (スイス)

きさげ技術を含む、工作機械の高精度・高剛性技術を獲得。旧森精機製作所初の海外生産拠点として、海外生産ノウハウを蓄積。



旧 アマダマシンツール

アマダより小型ターニングセンタ事業を譲り受けたことにより、製品ポートフォリオに小型ターニングセンタが加わる。WASINOブランドとして展開。

DMGと協業開始

2009

2008

Magnescale

現 マグネスケール

現ソニーグループより超精密計測機器事業を買収。半導体製造装置や工作機械の重要部品である、スケールやセンサなどの超精密計測機器技術を獲得。



SAKI

DMG MORI Group

現 サキコーポレーション

実装基板や半導体のインライン自動検査システムメーカーに持分法適用開始(2023年に100%グループ化)。次世代通信システム、EV分野での顧客層拡大に貢献。

DMG MORI

CASTECH

現 DMG MORIキャストテック

旧渡部製鋼所によるベッド、コラムなど鋳物の内製化により、安定供給と品質向上を実現。

DMG MORI Precision Grinding / 太陽工機を100%グループ化

2016

2015

2020

DMGと完全経営統合

DMG MORI

PRECISION BORING

現 DMG MORI Precision Boring

旧倉敷機械が強みをもつボーリングマシン(CNC横中ぐりマシニングセンタ)により、製品ラインアップをさらに強化。

2024

宮脇機械プラントを100%グループ化

2025

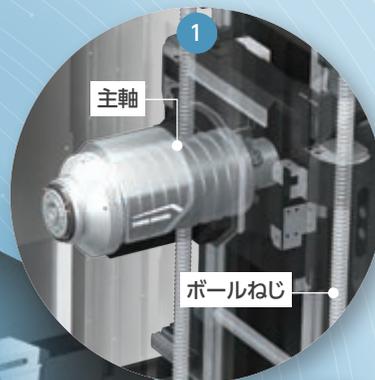
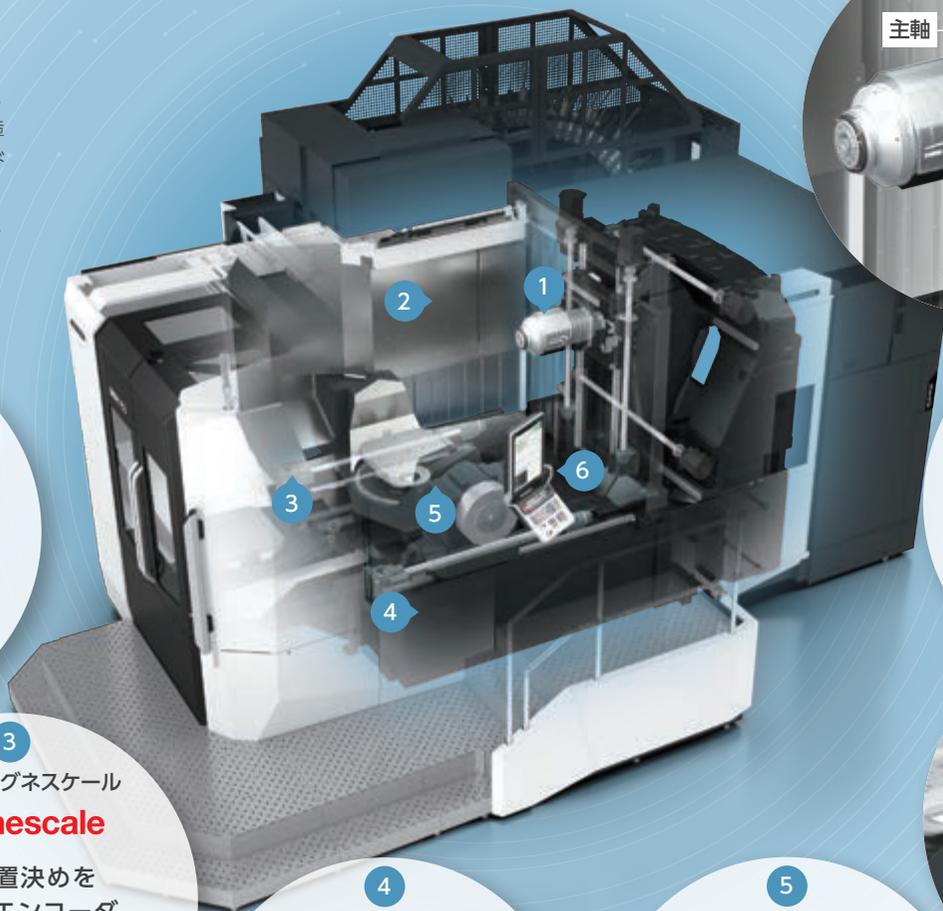
DMG MORI

- ☑ グローバル・ワンの工作機械メーカー
- ☑ ワンストップでお客様の課題解決
- ☑ 日・欧・米を融合した企業文化

グループ会社のノウハウ結集：内製部品

DMG MORIのユニークな点は、内製の主軸、ボールねじをはじめ、スケール、鋳物、オペレーション・システムなど、工作機械の核となる技術をグループ内で開発・製造していることです。グループ内で完結することにより、品質の確保はもとより、ハードウェアとソフトウェアを融合した技術革新が可能になります。

さらに、WALCが提供するDX技術、テクニウムが提供するmy DMG MORIなど、お客様にとってのライフタイム価値向上を、グループ一貫で提供します。



2
ATC
(ツールチェンジャ)



6
DMG MORI Digital株式会社
DMG MORI
DIGITAL
オペレーションソフトウェア
CELOS X
=抜群の操作性

ERGOline X with
CELOS X



ヒューマンマシン
インタフェース
ERGOline X



5
ダイレクト・ドライブ方式
モータ



4
DMG MORIキャスト株式会社
DMG MORI
CASTECH
鋳物 (ベッド、コラム)
=工作機械の剛性を
左右する決定打



3
株式会社マグネスケール
Magnescale
超精密位置決めを
実現するエンコーダ
マグネスケール (リニア)
SQ57



株式会社WALC
WALC
AIを活用した
予兆保全、AMRなどの
最先端ソフトウェア技術



テクニウム株式会社
TECHNIUM
MRO・ライフタイム
バリュー提供の
プラットフォーム

株式会社マグネスケール

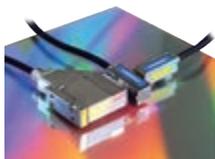
神奈川県伊勢原市鈴川45番地
https://www.magnescale.com

Magnescale

SPEED × PRECISION

磁気と光の超精密位置検出技術で 製造・計測装置の高精度化に貢献

株式会社マグネスケールは、磁気と光を中心とした検出原理で高精度位置検出システムを、工作機械や産業機器の分野に提供し、製造業の超精密化に貢献しています。金属切削のような過酷な現場でも信頼性を発揮する「マグネスケール」、2.1ピコメートルの高分解能で最先端の半導体製造装置や超精密加工機の品質向上に貢献する「レーザスケール」、製造・組立工程で発生する「測る」をデジタルで支える「デジタルゲージ」の製品群に加え、JCSS(Japan Calibration Service System=計量法トレーサビリティ)の長さと角度の校正事業者の認定も取得し、国家標準にトレーサブルな製品を提供しています。最先端の半導体製造装置のキーデバイスであるレーザスケールは需要が拡大しており、その供給責任も重要になっています。生産能力の拡大とBCP(事業継続計画)対応のために2025年9月に奈良県にレーザスケール新工場を竣工、2026年1月に操業を開始しました。今後、レーザスケールもマグネスケールも2拠点で生産できる体制を構築し、商品力とサステナビリティでDMG MORIグループの顧客価値創造に貢献していきます。



超高分解能三次元計測レーザスケール



マグネスケール (リニア) SQ57



マグネスケール (ロータリ) RS97

DMG MORIキャステック株式会社 **DMG MORI**

島根県出雲市大津町1378
https://www.dmgmori-castech.com

CASTECH

鋳物: 工作機械の精度、剛性、耐久性を決定付ける 重要部品

DMG MORIキャステック株式会社は、工作機械の主要部品であるベッド、コラムなどの鋳物を生産しています。鋳物は、工作機械の精度、剛性、耐久性を決める重要な部品であり、高い品質の維持と安定的な調達量を確保することが重要です。また、鋳物の製造や調達には多くのCO₂排出を伴うため、その対策も必要です。これらの課題に対応するために、2022年から本社工場の建て替えを開始し、従来のコークス炉から電気炉への切替を完了しました。さらに2024年から、廃却される工作機械の鋳物や、機械工場から機械加工で排出された鋳物の切りくずを原料として使用することにより、廃棄される工作機械を最新の工作機械へ生まれ変わらせるサーキュラーエコノミーの取り組みを開始しています。2030年までに本社工場の建屋の建て替えを完了させ、生産方式もロボットを積極的に導入し、昔ながらの鋳造工場のイメージを払拭します。そして、さらなるCO₂排出削減を行うとともに年間生産量を20,000トンまで増やします。これは、DMG森精機の鋳物の年間必要量の75%程度をグループ内で賄えることを意味します。DMG MORIキャステックはDMG森精機の鋳物の安定調達に貢献すると同時に、環境負荷低減に努めます。



DMG MORI Digital株式会社 **DMG MORI**

北海道札幌市厚別区下野幌テクノパーク1丁目1番14号
https://www.dmgmori-digital.co.jp/

DIGITAL

ITソリューション開発でMXの推進に貢献

DMG MORI Digital株式会社(以下、DIGITAL)は、1980年に北海道大学発ITベンチャー「株式会社ビー・ユー・ジー」として札幌に設立、ソフトウェアとハードウェアの高い技術力を背景に事業を展開し、2008年にDMG森精機のグループ会社となりました。

DMG MORIが2024年に新機種への搭載を開始した、新たなヒューマンマシンインタフェース[ERGOline X with CELOS X]をはじめ、オペレーションソフトウェアや機械をネットワークに接続するコネクティビティ分野の開発を行っています。また、業務効率の向上や操作性の改善を目的としたPCソフトウェアの企画・開発を行っています。製造現場のニーズに寄り添い、加工精度や生産性の向上を支援する機能を提供することで、お客様を力強くサポートします。2025年にはDIGITALが開発した3Dモデルから加工形状を認識し、対話形式でプログラム作成が可能な新製品「CELOS VISUALprogramming 3D」の販売が開始されました。

DIGITAL製品Digital E3 Core シリーズ「エッジAI ボード」は、カメラでの撮影とAI処理が可能な組込CPU基板です。厳しい品質基準をクリアした高い信頼性が特徴で、2025年に生産するDMG MORIの工作機械より、「AIチップリムーバル」への搭載を開始し、さらにDMG MORIグループ外への販売も開始しました。



テクノウム株式会社

TECHNIUM

東京都江東区枝川3丁目1番4号
DMG MORI東京デジタルイノベーションセンター
<https://www.technium.net/>



MX戦略に不可欠なDX要素を提供

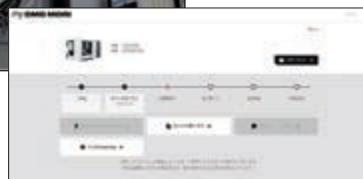
テクノウム株式会社は、2018年にDMG森精機株式会社と株式会社野村総合研究所により共同で設立され、お客様のデジタル変革(DX)を支援してきました。テクノウムのミッションは、DMG MORIのMX戦略に不可欠なDX要素を提供することです。

2025年は、カスタマーポータル「my DMG MORI」上で提供しているEコマース[eMarket]を強化するとともに、AIでCAMプログラムを自動生成する「CAM Assist」、現場担当者が業務をアプリ化できるコンポーザブルMES「TULIP」の販売を開始しました。製品購入の環境やDX環境を、よりスムーズに構築できるサービス・ソリューションのラインアップを整備しています。

今後は、急加速するAIの適切な活用を含めたDX支援を強化し、2030年に向けて「my DMG MORI」と「CELOS Xchange」を中心にサービスを拡充します。my DMG MORIは工作機械関連のニーズを包括的にカバーするポータルに、CELOS Xchangeは工場の機械データを管理するハブとして進化させ、これらのプラットフォームに接続するユーザーの一層の増加に取り組みます。また、DXを補完するソリューションの提供・サポートも拡げてお客様のDX実現を支援していきます。



テクノウム
コーポレートサイト



保有機械の情報を一元管理できるmy DMG MORI

株式会社サキコーポレーション

SAKI
DMG MORI Group

東京都江東区枝川3丁目1番4号
DMG MORI東京デジタルイノベーションセンター
<https://www.sakicorp.com/>

電子部品実装工程向け自動検査装置で 工場の製造品質に貢献

株式会社サキコーポレーションは、電子モジュールの製造工程において、実装基板の画像を高精度に撮像し良品 / 不良品を自動判定する品質検査ソリューションを提供しています。2025年4月に丹波優が社長に就任し、新たな経営体制のもと、さらなる技術革新と事業成長を推進しています。上期には工場をDMG森精機奈良事業所隣接地に移転し、生産能力を強化しました。また、ロゴマークを刷新しました。DMG MORIグループとしてのブランド統一を高める新しいロゴは、品質と信頼を礎に、グループのシナジーを体現する象徴です。

光学検査+X線検査+ソフトウェア+アフターサービスのトータルソリューションにAIを組み合わせた提案で、車載・産業分野に加え半導体分野へ事業を拡げています。時代を牽引する顧客層の拡大は、DMG MORIグループの事業領域の拡充を支えています。これからも、お客様の製造品質と生産効率向上を支える自動検査のプロバイダーとして、製造業の発展と持続的成長に貢献していきます。



X線自動検査装置

株式会社WALC

WALC

東京都渋谷区渋谷三丁目26番20号
<https://www.walc.co.jp/>

自動化・DXの最先端サービス開発拠点

2022年4月1日に「株式会社WALC」を東京・渋谷に設立しました。WALCは、製造業のデジタル革命を主導する人材の育成の場として2017年に設立した「先端技術研究センター」を引き継ぎ、MXを推進するサービスを提供することを目的としています。2023年には自律走行ロボットWH-AMR(Autonomous Mobile Robot)の開発をDMG森精機から移譲され、工作機械と連携して工具・ワークの搬送を行うソリューションとして稼働率向上・省人化に貢献しています。また、工作機械の予兆保全を行う「Condition Agent」及び既設の工作機械への後付けに対応した「Condition Agent Kit」を開発し、お客様の設備の稼働率最大化を支援していきます。

2030年にはさらに自動化が進み、自由度の高いAMRがますます重要となると考えて次世代のAMRの開発を進めています。自動化が進めば機械の稼働率が高くなりますが、それに伴って予兆保全や機械アラームのハンドリング、スペアパーツや消耗品の供給など、今は人が行っている領域をDX化する必要を見込んでいます。高度なデータサイエンス人材の集積拠点ともなっており、DXに必要な先進的なサービスの開発にも取り組みます。



気候変動への対応



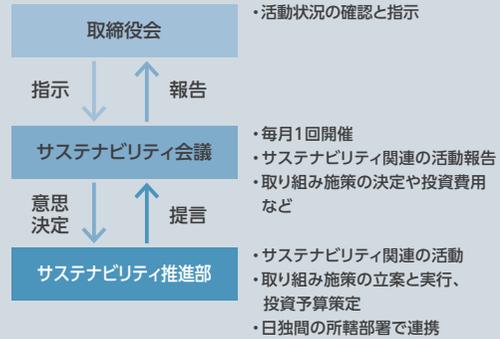
当社は、TCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosures: 気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言に準拠した気候変動関連リスク及び機会に関する項目について積極的に開示するという趣旨に賛同し、以下の取り組みを進めています。

ガバナンス

専任部門が気候変動に伴う対策を計画・実行・監視

気候変動による事業へのリスクと機会を評価しその対策を計画、実行、監視する部門として「サステナビリティ推進部」を設置しています。同部門は、毎月1回開催されるサステナビリティ会議にて、サステナビリティ課題についての活動を報告し、それに係る重要な設備投資額の承認などを求めます。

気候関連のリスク及び機会に係るガバナンス体制



戦略

マシニング・トランスフォーメーション(MX)の促進を通じて気候変動対応へ貢献

当社が推進するMXは、お客様の生産性向上と経営資源の節約になり、電力消費量の削減等を通じてCO₂排出量の削減につながります。すなわち、MXの推進こそが環境負荷の低減に貢献するものと考えています。自社努力として、当社は2025年8月に国際的な環境イニシアチブである「RE(Renewable Energy)100」に加盟し、事業活動に必要な電力のうち、2035年までに90%、2040年までに100%を再生可能エネルギーで調達することを宣言しました。同時に、従来からの自家消費型太陽光発電のオンサイトPPA導入に加えて、日本では非化石証書の単年調達契約から、オフサイト型バーチャルPPAに切り替えて、国内需要量の9割以上に対して約20年間の安定調達を実現しています。

指標と目標

SBT^{*1}イニシアチブの認定を取得

当社は2030年までの温室効果ガス排出削減目標を設定し、2024年6月に国際的な環境団体「SBTイニシアチブ」より、独AG社とともに「ネットゼロ」目標の認定を取得しています。本目標では、2019年の温室効果ガス排出実績値を基準として、2030年までにスコープ1及びスコープ2で46.2%の排出削減、スコープ3で27.5%の排出削減を、それぞれ目標値として設定しています。2050年までの長期目標においては、スコープ1からスコープ3合計で90%の排出削減を設定しています。

*1 Science Based Targetsの略(パリ協定での世界の気温上昇を産業革命前より1.5~2℃に抑えることを目指す水準と整合した目標値)、当目標値は2019年比の活動量の増加を加味した削減率

温室効果ガス(CO₂)排出削減目標

SBTイニシアチブが提唱する「ネットゼロ」目標では、2050年までの1.5℃水準の削減目標を設定し、残余排出量を炭素クレジットにより除去・中立化することが求められています。

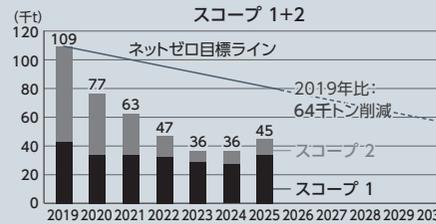


ゼーパッハ工場(ドイツ) 伊賀事業所(日本)



目標年	2030年	2050年
スコープ1及びスコープ2	▲46.2%	▲90% (スコープ1、スコープ2及びスコープ3の合計)
スコープ3	▲27.5%	

CO₂排出量推移 (SBT目標値比)



CDP 2025 気候変動分野で2年連続「Aリスト企業」に認定 水セキュリティ分野も「Aリスト企業」に初認定



スコープ1、2、3 CO₂排出量 (連結)

※2025年の算定値は第三者による保証前

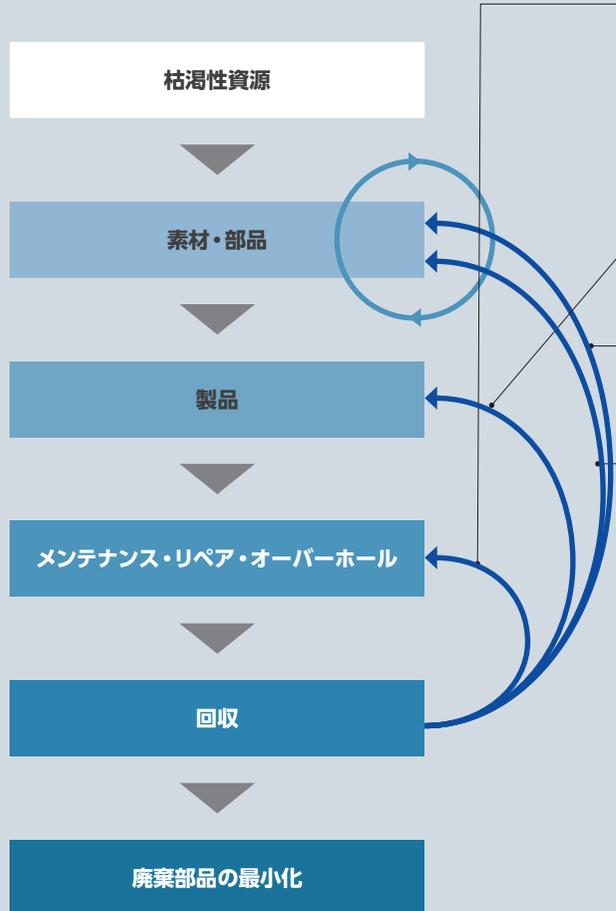
スコープ	カテゴリ	排出量発生源	2024 (連結)		2025 (連結)	
			千トン	構成比	千トン	構成比
スコープ1		自社からの直接排出	27	2.1%	34	2.6%
スコープ2		外部からのエネルギー供給(電力)	9	0.7%	11	0.9%
スコープ3	Category 1:	購入した部品・サービス	396	30.8%	494	37.9%
	Category 3:	スコープ1、2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	11	0.8%	16	1.2%
	Category 4:	輸送(上流)	22	1.7%	22	1.7%
	Category 5:	事業から出る廃棄物、水の使用	3	0.2%	1	0.1%
	Category 6:	出張(飛行機、電車、車、バス等)	18	1.4%	21	1.6%
	Category 7:	通勤(公共交通機関、車等)	14	1.1%	16	1.2%
	Category 9:	輸送、配送(下流)	9	0.7%	9	0.7%
	Category 11:	販売した製品の使用	747	58.1%	655	50.2%
	Category 12:	販売した製品の廃棄	30	2.3%	25	1.9%
	Category 15:	投資	0	0.0%	0	0.0%
	スコープ1+2+3			1,286	100.0%	1,305

サーキュラーエコノミー(循環型経済)への貢献

老朽設備を回収・解体・分別することで得られた再生材や、機械加工工場で生じた切りくずを、当社製品の基幹部品で使用する鋳物原材料の一部としてリソーシング(再資源化)

持続可能なサーキュラーエコノミーを実現するために、当社では、DMG MORI CIRCULAR株式会社(以下、サーキュラー)や、DMG MORIキャストック株式会社(以下、キャストック)ほかが主体となって、3Rに代表される様々な取り組みを実践しています。

再生可能資源の活用



メンテナンス・リペア・オーバーホール

工作機械の長期安定使用に貢献

適切なメンテナンスを定期的に継続することで、工作機械は20年以上も使用可能な生産財です。当社では、製品出荷後もMRO事業を通じ

て、お客様工場にある設備に対して、引き続き一定レベルの精度や性能を維持しながら、より長くご使用いただけるようサポートしています。

リユース

サーキュラーでは、長期にわたって使用された設備機械のオーバーホールやレトロフィットを請け負い、基本性能を修復させたり、新たな機能を追加するなどして、中古機械へもう一度新

たな生命を吹き込む事業を行っています。新品機よりも、より少ない資源やエネルギーで生まれ変わった設備を提供することで、お客様のお仕事を応援しています。

リマニュファクチャリング

主軸ユニットのリビルド・リペア：年間約1,000本 / 2025年

リビルド・リペア主軸ユニットも供給・販売しています。消耗品は交換し、基幹部品は検査結果

に応じて、交換の要否を判断し、可能な場合には繰り返し利用します。

回収・リソーシング

サーキュラーでは、老朽設備を回収・解体・分別して得られた再生材を、新たな鋳物部品の原材料の一部としてリソーシングしています。また、社内やパートナー工場にて機械加工した際に生じる切りくずも、圧搾してクレーントを分離しつつ、固化し、同じく新たな鋳物部品の原材料の一部としてリソーシングしています。再生材の溶解工程以降は、グループ会社のキ

ャスチックにて行っています。従来は、専門の外部業者が引き取り、市中にてリサイクルされていましたが、現在は、当社の製造プロセスの中に組み込んで、当社製品の一部としてリソーシングしています。当社が管理する独自のサプライチェーンの中で、生まれの確かな再生材を繰り返し利用することで、省資源のみならず、鋳物品質の安定化にも寄与しています。



中古機販売



使用済みの機械のリソーシング



切りくずのリソーシング



■ 会社の概要 2025年12月31日時点

会社名	DMG森精機株式会社
資本金	71,804百万円
設立	1948年10月
グローバル本社	東京グローバルヘッドクォーター 〒135-0052 東京都江東区潮見2丁目3-23 TEL : 03-6758-5900(代)
第二本社	奈良商品開発センター 〒630-8122 奈良県奈良市三条本町2番1号

■ IRカレンダー

DMG森精機株式会社

2026年3月27日	第78回 定時株主総会
2026年5月1日	2026年度 第1四半期決算発表(予定)

主な事業内容	工作機械(5軸加工機、複合加工機、 横形・立形マシニングセンタ、 ターニングセンタ、グライインディング センタ、ボーリングマシン、アディティブ・ マニファクチャリング機及び その他の製品)、ソフトウェア(ユーザー インタフェース、テクノロジーサイクル、 組込ソフトウェア等)、計測装置他 周辺装置、MRO(メンテナンス・リペア・ オーバーホール)、スペアパーツ、 エンジニアリング等トータル ソリューションの提供
従業員	14,026名(連結)
Webサイト	https://www.dmgmori.co.jp

■ 株主メモ

事業年度	毎年1月1日～12月31日
期末配当金受領株主確定日	毎年12月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 : 0120-782-031(通話料無料) 受付時間 9:00～17:00 (土日祝日および年末年始12/31～1/3を除く)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 プライム市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.dmgmori.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他の やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に 掲載いたします。)
(ご注意)	1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を 開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等 にお問い合わせください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっ ておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問い合わせください。 3. 払渡しの期間経過後の未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店(コンサルティングオフィス・ コンサルプラザを除く)でお支払いいたします。

Webサイトのご案内

Webサイトにて当社の企業情報を随時公開しています。

コーポレートページでは、ニュースリリースに加えて、DMG MORIの技術やサステナビリティへの取り組みなどご覧いただけます。

また、株主・投資家情報ページにて決算説明会動画をオンデマンド配信しています。

<https://www.dmgmori.co.jp/corporate/>



コーポレートページ



株主・投資家情報ページ

DMG MORIは、
以下のSNSで
情報発信しています。



TVCM、ミニ番組のご案内

TVCM [DMG MORI × Front Runner]

先進的かつ独自の取り組みを
しておられるお客様を、業界
注目のフロントランナーとして
ご紹介しております。日々
進化する生産現場の取り
組みを、ぜひご確認ください。



放送

BSテレビ東京

毎月第1・2日曜
23:25頃(「ガイアの夜明け」終了後)

TVCM
Front Runner
シリーズ



ミニ番組「港時間」

世界の港にスポットを当て、世界各国の
綺麗な港まちや風景を伝え、それぞれの
港の生活や、そこに根付く文化、人々と
ヨットとの関わりについても紹介して
います。



放送

関東エリア テレビ朝日 毎週土曜 22:54~23:00

中部エリア メ〜テレ 毎週日曜 17:25~17:30

関西エリア ABCテレビ 毎週金曜 23:10~23:17

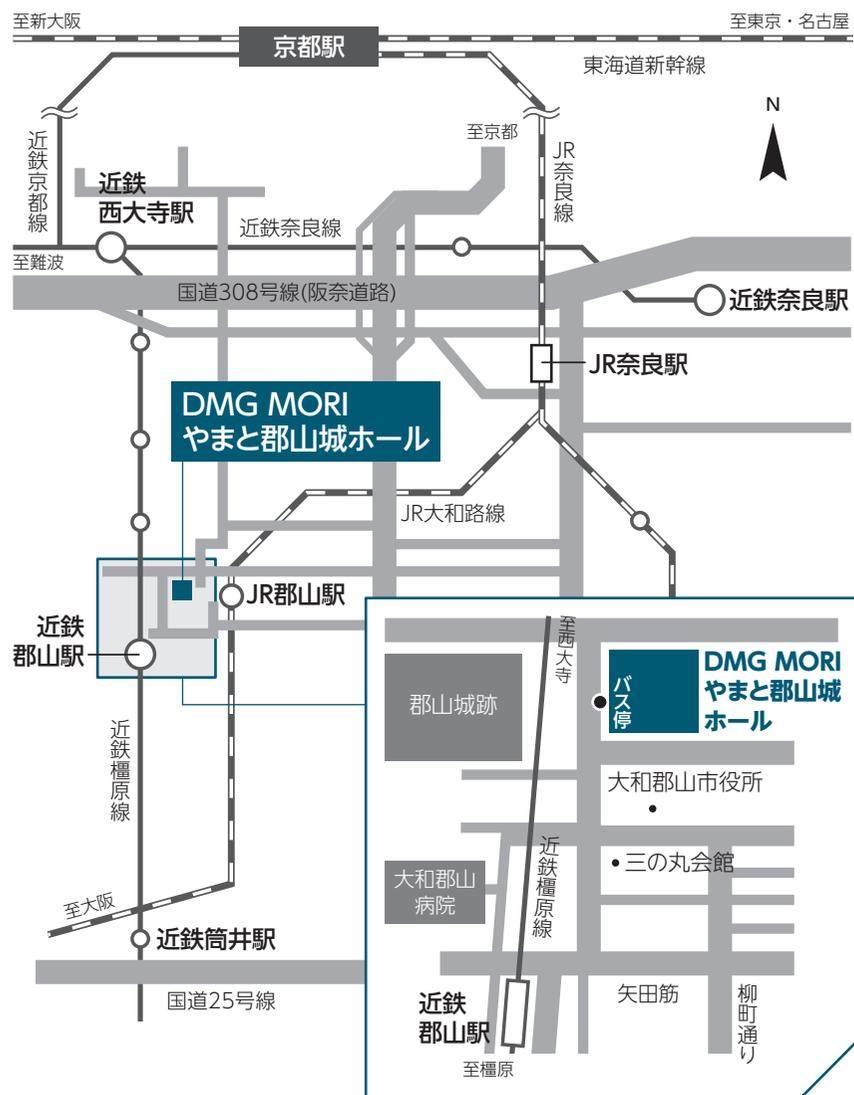
テレビ朝日
番組サイト



※番組編成が変更された場合は、放送時間の変更の可能性がございます。

※番組編成が変更された場合は、放送時間の変更の可能性がございます。

株主総会会場ご案内図



会場 奈良県大和郡山市北郡山町211番地3 DMG MORI やまと郡山城ホール 大ホール

鉄道のご案内

- ◎近鉄郡山駅より 徒歩7分
- ◎JR郡山駅より 徒歩15分

バスのご案内

- ◎奈良交通バス
停留所「やまと郡山城ホール」下車すぐ
- ◎大和郡山市コミュニティバス
元気城下町号・元気平和号(近鉄郡山駅方面行き)
停留所「やまと郡山城ホール」下車すぐ

お知らせ ご来場にあたりましては、当社として専用の駐車場はご用意しておりません。公共交通機関のご利用をお願い申し上げます。

奈良事業所 工場見学のご案内

本年は、定時株主総会の前に、奈良事業所(奈良県大和郡山市井戸野町362番地)にて工場見学を実施いたします。奈良事業所は、工作機械と自動化システムの組立検証を行うシステムソリューション専用工場で、改修工事を完了し、2025年4月に稼働を開始しました。当日は、総会会場にて受付いただいた後、シャトルバスにて奈良事業所へご案内いたします。また、見学終了後は、同バスで総会会場へお戻りいただきます。



集合時間	3月27日(金) 午後0時30分～午後1時最終受付	集合場所	DMG MORI やまと郡山城ホール ロビー
参加対象	株主ご本人様のみ	事前申込	不要
		見学時間	30分程度

- ※直接、奈良事業所へお越しいただいても、セキュリティゲートがあるためご入場いただけません。
- ※集合時間に遅れた場合、工場見学にはご参加いただけません。
- ※工場見学にご参加されない場合、株主総会の受付開始は午後2時からとなります。
- ※見学の様子を撮影する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

FSC
ミックス
紙に責任ある森林
管理を求めています
www.fsc.org
FSC® C013080

VEGETABLE OIL INK